ANNUAL REPORT 2019

2019年度 事業報告書

日本YMCA同盟

「伴走」を通して YMCAのミッションを具現化

2017年度からスタートした「日本YMCA中期計画2020」の3年目となり、各々のYMCAの活動が全国一致の観点からより連動し、「みつかる。つながる。よくなっていく。」の体験を「YMCA伴走サポート」という形で具現化できるよう、取り組みを進めました。ひとりの子ども、ひとつの家庭に寄り添いながら、一貫して子育てと子育ちを支援し続けるあり方は、YMCAの全人一貫教育そのものです。

また、本年は54年ぶりの日本での国際大会となったアジア・太平洋YMCA大会及びユース・アッセンブリーをYMCA東山荘及びオリンピックセンターで開催し、21ヵ国から377名（内、日本参加者129名）が、「自然の恵みに抱かれ、平和に向かって共に生きる」をテーマに参集しました。特に若い世代が、地球環境や気候変動に対して、貧困や差別、抑圧に目を向け、異なる文化や価値観の間に調和を生み出す、真の平和を創る者としてどう行動すべきかを真摯に考えることができたことは、将来に向けて大きな財産となると確信しています。

そして、新しい動きとして企業と協働し、これまでITやプログラミングについて学ぶ機会がなかった子どもたちに「誰もがテクノロジーで世界を変えられる」プロジェクトを提供することができました。

秋には、台風15号・19号が東日本を中心に大きな被害をもたらしました。緊急支援活動にあたり、国内外のYMCA・ワイズメンズクラブより多大なるご寄附を寄せていただきました。

年の変わった2月から新型コロナウイルス感染の拡大が世界規模で進み、YMCAでも予定されていた多くの活動、特に春休みのキャンプ、日本語学校・専門学校の卒業式、ユースボランティアの感謝会など、見合わせや延期を余儀なくされました。一方で全国一斉での学校休業に対応して、アフタースクールでは対象者を拡大して受け入れを継続し、「＃はなれていても つながっている」キャンペーンを一早く開始しました。運営において大きな困難に直面していますが、この初動が医療従事者や生活に必要なサービス事業提供者のご家族、また生活困窮家庭を支える保育や日本で暮らす留学生・外国人への支援の輪につながりました。

YMCAの先輩であり、アフガニスタンの農業・灌漑支援に尽力した医師の中村哲さんを天に見送りましたが、中村医師の「一隅を照らす」まっすぐな信念と行動力こそ、いま私たちは問われているのではないでしょうか。本年も多くの皆様からご寄附や協賛をはじめ、多大なるご支援をいただきましたことを、感謝とともにご報告させていただきます。

日本YMCA同盟総主事が神﨑清一第15代総主事より、田口努第16代総主事に交替しますこと、合わせてご報告申し上げます。

日本YMCA同盟　会　長　**笈川　光郎**
日本YMCA同盟　総主事（代表理事）　**田口　努**

みつかる。
つながる。
よくなっていく。

目　次 Contents

日本YMCA中期計画2020　3年目として …… 02
ブランディング推進協力 …… 06
ポジティブネット創造 …… 07
国際青少年センターYMCA東山荘 …… 08
学生YMCA …… 09
日本YMCA研究所 …… 10
寄附・支援 …… 12
日本YMCA同盟委員会報告 …… 17
全国YMCA総主事会議関連報告 …… 21
現勢　関係団体 …… 25
日本YMCA同盟組織 …… 26
2020年度事業方針計画 …… 27
資料：日本YMCA中期計画2020 …… 31

日本YMCA 中期計画2020

3年目として

中期計画2020聖句

神の国はからし種のようなものである。土に蒔くときには、地上のどんな種よりも小さいが、
蒔くと、成長してどんな野菜よりも大きくなり、葉の陰に空の鳥が巣を作れるほど大きな枝を張る。
（マルコによる福音書4章31節－32節）

日本YMCA同盟2019年度基本聖句

なすべきことはただひとつ、後ろのものを忘れ、前のものに全身を向けつつ、
神がイエス・キリストによって上へ召して、お与えになる賞を得るために、目標を目指してひたすら走ることです。
（フィリピの信徒への手紙3章13－14節）

1 ブランディングを推進し、ミッションを明確にする

1)「YMCAブランドの革新」を核とした中期計画を進める業務推進の強化
2)事業領域化、KPI*、事業強化策の推進モデルの構築
3)ブランドコンセプト浸透展開及び表出移行最終年のための研修と支援
4)ミッションブックの作成と研修化

＊KPI＝Key Performance Indicator（重要業績評価指標）

YMCAが長い歴史の中で大切にしてきた全人一貫教育を、「成長応援指標」に基づいて、子どもの成長や個性を記録し、保護者とコミュニケーションを図る「YMCA伴走サポート」という仕組みに整え、複数のYMCAで導入しました。また、全国的な動向を可視化するためにKPI収集とその入力システムの構築に着手しました。日本YMCA同盟協議会では、ブランドにふさわしい活動や事例の紹介、ユースによる発表等を行い、ポジティブネットの実現のための行動喚起につなげました。

2 全国的な広報戦略を策定する

1) 積極的広報の研究とパイロット展開
2) ポジティブネット実現のための社会的メッセージの発信
3) 通常広報の見直しと強化（機関誌『THE YMCA』等）
4) 寄附・募金の積極的な推進とパイロットプロジェクトの取り組み

WebサイトやSNSの活用を強化するため、その整理と情報発信に努めました。ピンクシャツデーを活用して、加盟YMCAによる全国でのニュースリリースを立案し、広報ツールの共有を進めました。機関誌『THE YMCA』では、子どもや平和、ユースをテーマの中心に据え、YMCA内外の専門家や有識者のメッセージを通して社会的課題への意見表明を行いました。

ハイライト2019

災害支援や社会の課題に対するアクションを国内外で展開

3 リーダーシップ研修の充実を図り、強化する

1)人材指標及びカリキュラムに基づいて、全国YMCAの研修内容の整理と体系化
2)専門職管理者研修の強化と、表出・広報実務者のための研修実施
3)日本YMCA研究所の研究／シンクタンク機能の強化
4)全国での就労環境整備及び人事協力・交流の支援

6年目となった専門職管理者研修は、「YMCA運動の担い手」「組織管理の運営」の理解を深めるため、カリキュラムや講師を改編して実施しました。また、主事認証のための主事論文がYMCA運動において生かされるよう『主事論文作成のポイント』を定めました。ブランド表出のための実務研修は東京・大阪で開催し、初級・中級と段階的な学びによるスキルアップを可能にしました。

4 YMCAマネジメントを強化し、確立する

1)年次経営指標データに加え、月次KPIデータ徴取開始
2)運営に課題のあるYMCAの対応・支援
3)各種委員会・会議体の活発化／活性化と再編成に向けての検討
4)法務機能の強化と加盟YMCAのコンプライアンス遵守サポート

独自の「経営分析プログラムVer.1.8」に基づき、個別YMCAの経営指標と全国集計（経年推移）をフィードバックし、マネジメント力向上へのサポートを行いました。人事を含むマネジメントに関するエリア間の協力、協働も進んでいます。また、必要に応じて専門家（社会保険労務士、弁護士、行政書士等）の助言も得つつ、ガバナンス・マネジメントの改善に取り組みました。

ユースによる企画プログラム「全国YMCAユースチャレンジ」を実施（写真はイメージ）

5 日本YMCA運動を組織変革する

1）日本YMCAのガバナンス構造の多角的な視点での本格的協議開始
2）変革のプラットフォームとしての同盟事務局の再編成と、今後の機能検討着手
3）ブランドマネジメント機能（システム）の整備
4）ブランド管理の観点からの加盟退除ガイドラインの検討着手

オールジャパンYMCAの協力体制の強化を目指して、組織改革に向けて多角的に議論や情報共有を進めました。KPIの取り組みを持続可能とするために、データ収集のサポートやシステムの検討、目的と意義の確認を行いました。また事業及びガバナンス面では、加盟退除ガイドラインに則り、課題のあるYMCAに対して、改善に向けたアプローチを個々に行いました。

6 “ポジティブネット”実現の姿を示し、ユースエンパワーメントを推進する

1）アジア・太平洋YMCA大会と国内外YMCA協働による平和づくり
2）全国YMCAのユースエンパワーメントの理解と推進の支援
3）グローバルネットワークブランドの強化と表出
4）災害対策のエリアセーフティーの確立と他団体との連携強化

日本で54年ぶりの開催となったアジア・太平洋YMCA大会が9月2日～6日に行われ、日本から129名、全体で377名の参加となりました。また、ユースによる企画プログラムを支援する「全国YMCAユースチャレンジ」を実施し、採用された5つの加盟YMCAに所属するユースグループの活動を助成することができました。台風15号・19号による被災時には、東日本地区エリアセーフティーを中心とした情報共有によりリソースの蓄積と活用がはかられました。

第20回アジア・太平洋YMCA大会（国際青少年センター YMCA東山荘）

7 同盟事務局機能ならびに東山荘の運営強化

1）四谷・東山荘の一体運営と合理化の推進
2）東山荘の安定的運営と施設整備推進ならびに地域協働の推進
3）学生YMCAの強化支援
4）ワイズメンズクラブとの協働推進
5）国際賛助室との協働再構築
6）海外のYMCAならびに国内のYMCAの情報の共有強化と課題に対する取組の拡充
7）退職金中央基金・職員年金基金の運営強化

同盟四谷、YMCA東山荘ともに業務の見直しを行い、合理化・効率化を目指した連携について継続して検討しました。YMCA東山荘の安定的運営に向けて営業を強化し、利用者を確保するとともに、施設・設備の整備に取り組みました。

ブランディング推進協力

事業領域化の推進

日本YMCA中期計画2020の後半となる3年目として、これまで進めてきた新ブランドをさらに展開し、全国一致しての事業強化に着手しました。一体感を見せはじめたブランドの表出、浸透から、次のステージとなる事業強化へと加速させていくために、4つの事業領域（子育てと子育ち、ユースエンパワーメント、生活クオリティの向上、社会に貢献）と事業のつながりを示し、Action Book2019にまとめました。ポジティブネットを図るものさしとしてのKPI（Key Performance Indicator）の収集は、進捗に差がありつつも、めざすべき方向を示す手がかりになるものとして、全国のYMCAとともに調査を進めています。

YMCA伴走サポートと成長応援指標

2018年にパイロットプログラムとして始まったYMCA伴走サポートは、茨城YMCAに続き埼玉YMCAで導入されました。成長応援指標に基づくエピソード記録の入力や記録されたデータの管理は、茨城YMCAの協力によりシステム化も進みました。ひとりの子ども、ひとつの家庭に寄り添いながら、一貫して子育てと子育ちを応援し続けるYMCAのオリジナルメソッドとして展開していくために、全国のYMCAでも導入準備の研修会を行いました。

「誰もがテクノロジーで世界を変えられる」

2019年9月より、アマゾンジャパン合同会社とライフイズテック株式会社、日本YMCA同盟がパートナーとなり、「Amazon Future Engineer」をパイロットプログラム（プログラミング教室）として展開しました。「Amazon Future Engineer」は、さまざまなバックグラウンドを持つ若者に、ITやプログラミングを学ぶ機会を平等に提供する、Amazonが展開する教育プログラムです。

9月16日にAmazon本社、9月29日に湘南とつかYMCA、11月16日から17日に富士山YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジ、11月24日にAmazon本社において開催され、総計168名が参加しました。

＃はなれていてもつながっているキャンペーン

2月から世界で感染拡大した新型コロナウイルスの影響を受け、YMCAでも多くの活動や、卒業式、入学式が見合わせ・延期を余儀なくされました。そのような中、「#はなれていてもつながっている」キャンペーンを開始。感染拡大を抑え互いのいのちを守るために、今は会わないことや、会えなくても互いを思いやり、感謝の気持ちを伝えることなどで連帯し、前向きな気持ちで過ごせるようにと11言語のポスターを作成して呼びかけました。

子どもたちの成長を一番近くで見守る

大学生がサポートしながら行われたAmazon Future Engineer

ポジティブネット創造

54年ぶりに日本で開催された国際大会 アジア・太平洋YMCA大会

第20回アジア・太平洋YMCA大会が9月2日～6日、YMCA東山荘にて開催されました。“Living Together Within Nature on a Path to Peace”（自然の恵みに抱かれ、平和に向かって共に生きる）をテーマに国内外から377名が集いました。また、同時開催で第4回ユース・アッセンブリーが8月31日～9月2日、国立オリンピック記念青少年総合センターで開催され、約100名のユース・関係者が交流しました。日本から多くの参加ができる機会となり、アジア各国の参加者と新しいつながりを得ることができました。

台風15号・19号被災地支援 募金キャンペーン

2019年9月9日に千葉県を中心に猛威を振るった台風15号、そして10月12日に関東地方と福島県を縦断した台風19号は、広域にわたり甚大な被害をもたらしました。とちぎYMCAでは発災後すぐにボランティアセンターを開設し、地域の団体とともに被災者へ食事を提供しました。また、復旧活動で忙しい家庭と子どもたちのために、安心して過ごせる居場所を提供しようと、子どもの遊び場プログラムを開催しました。全国YMCAでの呼びかけにより、ワイズメンズクラブを含め2,400万円を超える募金が寄せられました。

平和を考え、行動する

「第2期北東アジア平和のためのYMCAユース平和委員会」が組織されました。8月には千羽鶴を広島に届ける取り組みを呼びかけ、1万羽を超える折り鶴を献納しました。2020年2月に開催予定だった第8回日中韓YMCA平和フォーラムは、新型コロナウイルスの影響で中止となりました。世界では、カンボジアYMCAによる貧困地域での幼稚園の運営、東ティモールYMCAによる子どもたちのための無料サッカープログラムや幼稚園の運営、紛争が続くパレスチナでの青年のための職業訓練学校など、困難な環境にある子どもやユースを支援しました。

YMCA175

175周年イベントが、8月4日～7日、ロンドンで行われ、100ヵ国以上からおよそ3千人のユースが集まり、日本からは4YMCA・5名のユースが参加しました。ワークショップや講演の全ては、人々の生活の中にある社会課題をどのように捉え、どのように声をあげ仲間を集め、行動に移していくかを伝えるものでした。8月6日には、広島YMCAのユースが「Learning From the Past, Working Together for Our Future」のワークショップを開催。原爆について純粋に知りたい、何かしたい、平和のために協働していこうという思いを共有しました。

日本YMCAのユースによるよさこい

（上）とちぎYMCAの遊び場プログラム
（下）ユース平和委員で訪れた2・8独立宣言資料室

国際青少年センター YMCA東山荘

年間概要

2019年度の総利用者は33,158名でした。客室利用におけるホスピタリティー向上のために、設備と施設衛生の改善にも取り組みました。ネイチャープログラムなど宿泊以外の付加価値を高めたことにより、学校関係の利用者数の増加に加えてインターネット予約による個人や海外からの利用者も増えましたが、年度末に広がった新型コロナウイルスの影響により昨年度よりも294名の減員となりました。御殿場市を中心とした地域住民の憩いの場として、食堂を利用した「森のレストラン」を運営し、個人客やグループでの利用をいただいています。また青少年ユース育成の場としての歴史を伝える『東山荘100年の歩み』を発刊しました。

アジア・太平洋YMCA大会

9月2日～6日の期間でアジア・太平洋地域から377名が集う「第20回アジア・太平洋YMCA大会」を招致し、1965年に行われた世界YMCA大会以来の大規模な国際会議が実施されました。富士山の雄大な自然を背景に、SDGsへの取り組みや自然との融和と平和をユースと共に考える大会に最適な環境を提供して、国際青少年センターとしての役割を果たすことができました。

御殿場市・地域との協働

御殿場市教育委員会からの受託事業である東山青少年広場を2017年度より継続し、近隣をはじめ地域外からも利用をいただいています。また、地域の観光施設や自治会による東山・二の岡路観光協議会では年2回のスタンプラリーやグリーンバンク助成による椿の植樹に取り組み、その事務局を担いました。

ネイチャープログラム

自然との出会いを通して、人と人、人と自然との健やかな関係づくりを目指し、利用者への受託プログラムと主催プログラムを実施しました。主催プログラムではキャンプを中心に延べ338名の利用がありましたが、さらに利用者を増やすために荘内で多層的にプログラムを実施するなどの工夫に着手しました。

国登録有形文化財に登録

3月に行われた国の文化審議会で、フィッシャー館と齊藤記念館が国の登録有形文化財として登録するよう答申されました。後世に残していきたい歴史的建物として人々に親しまれ、地域の資産としてこれからも活用されます。

YMCA東山荘を会場にアジア・太平洋YMCA大会が開催された

（上）ネイチャープログラム・のんびり楽しく富士山登頂
（下）登録有形文化財となったフィッシャー館

学生YMCA

全国学生YMCA合同報告会「冬ゼミ」

2020年2月15日～16日にＹＭＣＡ東山荘にて「学生YMCA掘り出し市」というテーマを掲げ、それぞれの学生YMCA、各地区そして全国の様々な活動を紹介し、質問や意見を交わす報告会を短期集中的に行う「冬ゼミ」として開催しました。毎年9月に開催される夏期ゼミが日本開催となったアジア・太平洋YMCA大会に参加する機会となり、あらためて冬に集まろうと企画されたこのプログラムには、11学生YMCAなどから22名のユースが参加し、学生部委員、共働スタッフなど合わせて総勢34名が一堂に会し、全国規模での情報交換や交流の場となりました。また、シニアメンバーの李明生牧師を招いての聖書研究と礼拝を通し、キリスト教に触れる機会やそれぞれの立場でその学びを深める体験の場ともなりました。

Students Summer Program

9月12日から14日までの2泊3日で学生YMCAの自主開催プログラムとしてＳＳＰ（Students Summer Program）が企画・開催されました。

全国9つの学生YMCAから23名が神戸大学YMCAの協力を得て神戸学生青少年センターに集まり、「アイデンティティ～あなたがいるからわたしがいる～」をテーマにした講演、グループワーク、聖書研究などを実施して充実した学びと体験の時を持つことができました。

アジア・太平洋YMCA大会＆ユース・アッセンブリーへの参画

8月31日から開催されたユース・アッセンブリーと連続して9月2日から開催されたアジア・太平洋YMCA大会に学生YMCAからも7学生YMCA、24名が参加しました。

世界でもユニークなYMCA運動の一つである日本の学生YMCAを紹介する展示ブースとワークショップを準備し、各国からの参加者と交流を深めながら言葉の壁を超えた情報発信を行いました。

中村哲氏を天に送る

12月4日、アフガニスタンで人道支援に尽くされていた中村哲医師が銃撃によって亡くなられました。中村哲さんは九州大学YMCAのメンバーで、学生YMCAから誕生した日本キリスト教海外医療協力会（JOCS）からのペシャワール赴任の打診を受け、同時に、彼の活動を支援するために設立されたのがペシャワール会であり、事務局は福岡YMCAでした。

九州大学YMCAでは「中村哲先生を偲ぶ会」が開かれ、学生YMCA賛助会ニュースレターでも特集を組み、若い時代に、人との関わりを通して社会を見る目、本質を見定めるまなざしを培い、自ら行動し続けることが平和な世界を創りだすことであると身をもって示されたその生涯を分かち合いました。

冬ゼミで所属や世代を超えて盛り上がるグループ討論

ピンクシャツデーのTシャツを着てポーズ（冬ゼミ）

日本YMCA研究所

研修

全国YMCA専門職管理者研修

期　間：2019年7月22日（月）～26日（金）4泊5日
場　所：YMCA東山荘
研修生：9YMCAより22名

岩根久仁恵（仙台）　黒澤路世（仙台）
金田朋実（とちぎ）　牛山愛（とちぎ）
田沼瞬（とちぎ）　塩澤高志（東京）　古川実（東京）
風間一騎（東京）　小泉貴哉（東京）　神田麻衣（東京）
遠藤利忠（横浜）　織原信枝（横浜）　河西彩夏（富山）
瀬川実沙子（奈良）　福井香（奈良）　越智絵美（大阪）
東来香（大阪）　宮城真弓（大阪）　大石和秀（大阪）
盛矢詳（大阪）　小澤夏子（神戸）　横山明子（同盟）

主なカリキュラム：人間関係トレーニング、YMCAとキリスト教、YMCAの福祉とブランディング、現代社会とYMCA、フィールドトリップ、YMCAの専門職としての人材管理と育成

日本YMCAスタッフ研修ステップII

期　間：2019年9月18日（水）～11月30日（土）74日間
場　所：YMCA東山荘／在日本韓国YMCA
研究生：6YMCAより8名

工藤啓二（北海道）　益聡（横浜）　中川喬之（富山）
小林直樹（大阪）　望月温（大阪）　西山友理（和歌山）
大田靖之（神戸）　達直樹（神戸）

主なカリキュラム：人間関係トレーニング、SDGsワークショップ、非営利組織の運営、労務管理、ガバナンスとコンプライアンス、フィールドトリップ

日本YMCAスタッフ研修ステップIII

期　間：2020年1月14日（火）～18日（土）4泊5日
場　所：YMCA東山荘
研修生：5YMCAより6名

佐藤信也（東京）　松本数実（東京）　箕浦史郎（大阪）
齊藤靖（神戸）　沖島均（広島）　横山由利亜（同盟）

主なカリキュラム：
日本YMCAのブランディングとミッション、説教演習、事業開発・推進力の養成、職場におけるハラスメントの理解とその対応、ヒューマンマネジメント力の養成

アジア・太平洋YMCA同盟主催 第37回アドバンスコース

日　程：2019年11月4日（月）～11月29日（金）
場　所：香港中華YMCA
参加者：山根一毅（同盟）

2019年度YMCAブランド表出研修

日　程：2019年7月6日（土）
場　所：大阪YMCA　参加者：22名
日　程：2019年7月17日（水）
場　所：東京YMCA　参加者：27名

ステップII研究生

主事資格

2019年6月1日付認定者・論文テーマ

菅井宏益（とちぎYMCA）
「新規プログラム開発と今後のとちぎYMCAへの展望」

三浦壮一郎（東京YMCA）
「東京YMCA野尻キャンプ将来構想」

山中奈子（横浜YMCA）
「全国YMCA発達支援事業の課題と展望～全国で発達支援に取り組むスタッフと共に歩むために～」

有田征彦（横浜YMCA）
「YMCAブランドの展開と浸透～ユニフォーム標準化施策を通して～」

立山英展（大阪YMCA）
「大阪YMCAにおけるブランディング～コンタクト・ポイントの再生をとおして～」

西田勉（神戸YMCA）
「日本におけるキリスト教伝播史とYMCA」

松田康之（神戸YMCA）
「人口減少時代における社会の課題とYMCAの働きについての考察～市民社会を構築するコミュニティとアソシエーション～」

丸目陽子（熊本YMCA）
「YMCAのさらなる地域活動の活性を目指しての一考察～熊本地震からの学びを通して～」

木村成寿（熊本YMCA）
「育ち合うための組織づくりを目指して～ YMCA人事制度を通しての一考察～」

ユース育成

YMCA地球市民育成プロジェクト

2019年度は過去認証生10名が、認証後プロジェクトで学んだことをさらに深めるための次のステップの活動として、第4回ユース・アッセンブリー及び第20回アジア・太平洋YMCA大会へ参加しました。

寄附・支援

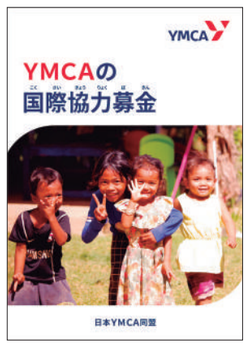
ポジティブネットYMCA国際協力募金

子どもやユースが、差別や争いのない社会で生き、自分も他の人も大切に思う気持ちを育めるように、との願いを込めて、全国で募金活動を実施しました。募金活動には多くの子どもから大人までが参加し、その募金は、日本国内に暮らす外国にルーツのある人々への活動、アジア・太平洋地域のYMCAの活動に活かされました。

収　入	
2019年度国際協力募金	6,252,519
ツール分担金	78,305
前年度繰越	1,736,054
収入合計	**8,066,878**

支　出	
国内外のユース育成（海外・研修派遣他）	1,353,000
難民支援（アフガニスタン難民・パレスチナ難民）	1,200,000
アジア地域のYMCAを通した支援（青少年育成・貧困者支援）	2,419,364
多文化共生のための支援	72,200
啓発・広報事業（リーフレット、パネル、DVD作成他）	2,033,981
事務費（送金手数料等）	38,693
支出合計	**7,117,238**

次期繰越	**949,640**



国内外の国際協力の取り組みを伝えるリーフレット

海外被災地支援募金等

現在も紛争下にあるパレスチナの青年たちへの支援と、生活を支えるためのオリーブ農園を守るために、東エルサレムYMCAが実施する職業訓練校およびオリーブの植樹への支援をしました。日々の抑圧下にある人々にとって、これらは財政的な支援以上に精神的な連帯を生み出しています。また、急増した南アジア・中東地域からギリシャ・テサロニキへの難民の生活支援に取り組むテサロニキYMCAの活動を支援しました。

収　入	
前年度繰越	3,100,339
募金収入	381,743
収入合計	**3,482,082**

支　出	
パレスチナ難民支援	155,000
オリーブの木キャンペーン	123,000
テサロニキ難民支援	115,743
支出合計	**393,743**

次期繰越	**3,088,339**
（内訳）	
ネパール地震被災地支援	1,510,502
ネパール地震被災地支援（神戸社会福祉協議会より）	1,122,985
フィリピン台風被災地支援	428,852
パレスチナ難民支援・オリーブの木キャンペーン	26,000

海外で活躍するユース（ワークキャンプ・フィリピン）

東日本大震災被災支援事業 2011.3.11発災

米国北カリフォルニア日本文化センター（JCCCNC）による支援を用いた復興支援従事者の心のリフレッシュプログラムを岩手県とYMCA東山荘を会場に実施し、これまでに計17回のプログラムを行いました。また、東日本地区YMCAでは福島県への訪問を継続し、日本YMCA同盟も東日本大震災支援全国ネットワークの世話団体として被災地と全国を繋ぐ役割を果たしています。

収　入	
前年度繰越	7,656,963
募金収入	1,000,000
収入合計	**8,656,963**

支　出	
JCCCNCリフレッシュキャンプ	474,604
支出合計	**474,604**

次期繰越	**8,182,359**

熊本地震被災支援事業 2016.4.14発災

熊本YMCAによる支援活動は被災から3年目を迎え、2019年度にも益城町・御船町の復興仮設住宅を中心に住民の見守りやコミュニティーづくりを支援しました。また、昨年に続き米国Give2Asiaの支援による復興支援従事者の心のリフレッシュプログラムを実施し、熊本での地域復興支援活動に携わる人々をサポートしています。

収　入	
前年度繰越	1,261,019
収入合計	**1,261,019**

支　出	
熊本YMCA活動費用	1,261,019
支出合計	**1,261,019**

次期繰越	**0**

九州北部豪雨被災支援事業 2017.7.15発災

福岡県朝倉市の児童を対象に福岡YMCAのシーズンキャンプに招待して、7名の子どもたちが参加しました。海でのキャンプ（夏）やスキーキャンプ（冬）など、子どもたちが普段では経験のできないプログラムを提供し、復興途上にある地域の子どもたちおよび保護者にリフレッシュと休養の機会を提供することができました。

収　入	
前年度繰越	3,653,174
募金収入	3,734,615
収入合計	**7,387,789**

支　出	
福岡YMCA活動費用	7,387,789
支出合計	**7,387,789**

次期繰越	**0**

（上）リフレッシュプログラムでは自然の中で心身を癒す
（下）仮設住宅の支援に台湾彰化YMCAからのユースボランティアも加わった

子どもたちは瀬戸内海に浮かぶ余島でのキャンプを楽しんだ

西日本豪雨被災支援事業 2018.7発災

広島YMCAとYMCAせとうち（岡山県）による支援が継続され、それぞれに被災地の子どもたちや家族を対象にしたキャンプを行いました。またYMCAせとうちでは、地域のキリスト教関連の団体と協力して私設のコミュニティーセンター「まびくら」を運営し、そこを拠点として子どもへのケア活動や防災・減災教育などに取り組んでいます。

収　入	
前年度繰越	7,060,745
募金収入	5,998,114
収入合計	**13,058,859**

支　出	
広島YMCA活動費用	4,115,392
YMCAせとうち活動費用	4,176,149
事務諸経費	30,000
支出合計	**8,321,541**
次期繰越	**4,737,318**

台風15号・19号緊急支援事業 2019.9-10発災

2019年度よりYMCA間の情報と知見の共有を図るネットワーク「YMCAエリアセーフティー」を整え、そのガイドラインに基づいて活動が行われました。東日本を中心とした被災地で、子どもや高齢者、応急仮設住宅での支援を行いました。また、ボランティアセンターの運営、社会福祉法人賛育会との協働など、他団体との協働も進めました。全国や海外のYMCA、ワイズメンズクラブ国際協会、他団体や企業から総額約2,400万円の募金が寄せられ、2020年度も支援活動を継続します。

収　入	
募金収入	9,910,241
収入合計	**9,910,241**

支　出	
仙台YMCA活動費用	286,000
ぐんまYMCA活動費用	167,071
埼玉YMCA活動費用	380,486
支出合計	**833,557**
次期繰越	**9,076,684**

＊上記は日本YMCA同盟を通した支援活動の収支報告です（2020.3.31現在）。

＊全国のYMCAには総額24,925,759円が寄せられ、地域で役立てられています。

落語家のゴスペル亭パウロさんをまびくらに招いた

ぐんまYMCAは郡山市でのクリスマス会を開催した

YMCAユースファンド

2019年度はYMCA地球市民育成プロジェクト認証生の認証後の活動支援として、2019年夏に開催されたアジア・太平洋YMCA同盟主催ユース・アッセンブリー及びアジア・太平洋YMCA大会への参加をサポートしました。参加した認証生はプロジェクトでの学びをさらに深めることができました。全国で実施されているユース育成プログラムには、茨城、松山の2YMCAに対して指定寄附がありました。

収　入	
前年度繰越	2,922,180
募金収入	2,103,200
利息収入	27
収入合計	**5,025,407**

支　出	
ユース育成（各Yその他）	600,000
運営費	219,421
支出合計	**819,421**
次期繰越	**4,205,986**

国際賛助室

2019年度は各国大使館、スポンサーのご厚意による異文化交流を進める企画が立ち上がり、各YMCAからメンバーが参加、また、各国大使館で寄附集めのためイベント・コンサート等も開催し、多くの方々にご参加いただきました。毎年開催している障がい児プログラム支援のためのYMCAインターナショナル・チャリティーランを、21ヵ所で開催しました。

収　入	
寄附収入	20,521,023
（1）コーポレートスポンサー	20,174,652
（2）個人	346,371
インターナショナル・チャリティーラン2019	6,734,944
その他	1,909,613
イベント	3,464,700
前年度繰越	14,157,167
収入合計	**46,787,447**

支　出	
全国YMCA障がい児プログラムへ	23,586,438
（1）CCP支援	（8,415,500）
（2）特定プログラムへ	（15,170,938）
21YMCAへ	
インターナショナル・チャリティーラン協賛金	3,400,000
インターナショナル・チャリティーラン経費	915,235
イベント経費	896,215
その他経費	1,576,557
日本YMCA同盟へ事務手数料として	2,404,020
支出合計	**32,778,465**
次期繰越	**14,008,982**

アジア各国のYMCAに連なる仲間と共に学びと分かち合いの時を持った

イタリア大使館ピザワークショップ

ワイズメンズクラブ国際協会

国際的社会奉仕団体のワイズメンズクラブからは、YMCAに様々な面でご協力をいただいています。2019年度、東日本区は「change! 2022」、西日本区は「新生ワイズ起こし運動」を展開、新しいクラブの創設や様々なチャレンジをされています。7月19日～21日、仙台にて第28回アジア・太平洋地域大会が開催されました。東西日本区が力を合わせて700名を超える参加者が集い成功をおさめました。困難の時代にこそ「つながりを大切にする」ワイズメンズクラブの働きは、YMCAのパートナーとして力強い存在です。

第20回アジア・太平洋YMCA大会開催や台風15号・19号緊急支援募金を通じた支援活動に、台湾区からの約300万円を含め多大なご協力をいただきました。感謝申し上げます。他に直接各YMCAにおいても人材育成のご支援をいただきました。

収　入	
ワイズメンズクラブ国際協会　東日本区	1,000,000
ワイズメンズクラブ国際協会　西日本区	1,000,000
収入合計	**2,000,000**

支　出	
第50回全国YMCAリーダー研修会	400,000
YMCA地球市民育成プロジェクト	80,000
第20回中日本地区グローバル研修会	200,000
学生YMCA合同報告会	200,000
第20回アジア・太平洋YMCA大会	820,000
キャンプ100記念シンポジウム2019	300,000
支出合計	**2,000,000**

第50回全国YMCAリーダー研修会には48名が参加

日本宝くじ協会

一般財団法人日本宝くじ協会から総額550万円の助成を受け、集会用テントが19YMCAに37張、宿泊用テントが14YMCAに23張、計60張が新たに配置されました。集会用テントは地域奉仕活動で活用され、地域との連携強化に繋がりました。宿泊用テントは各YMCAが実施する野外教育プログラムで活用され、参加した多くの子どもたちが楽しみながら学ぶ貴重な機会を提供しました。

収　入	
助成金収入（本体事業費）	5,500,000
助成金収入（消費税分）	440,000
自己財源収入	776,196
収入合計	**6,716,196**

支　出	
集会用テント　37張	4,194,700
宿泊用テント　23張	2,024,000
消費税	497,496
支出合計	**6,716,196**

1400名が訪れたバンビカーニバルで活用されたテント（大阪YMCA）

日本YMCA同盟 委員会報告

委員任期：2018年7月～2020年6月／◎は長を示します

１．理事会・評議員会・常議員会・協議会

■法人理事会

主な議題：

第338回（2019年5月18日）
・2018年度同盟事業報告及び決算報告の件
・第23回通常評議員会開催の件

第339回（2019年9月28日）
・同盟人事の件
・次期同盟総主事候補者推薦委員会の件

第340回（2019年9月28日）
・日本YMCA中期計画 2020 の進捗状況及び今後の取り組みの件
・第20回アジア・太平洋YMCA大会報告及び評価の件

第341回（2019年11月30日）
・次期同盟総主事（代表理事）選任に関する規則施行細則別規程の一部変更の件
・次期同盟総主事（代表理事）推薦委員会答申の件
田口努氏を次期総主事として承認

第342回（2020年1月25日）
・2020年度日本YMCA同盟方針・計画骨子の件
・2020年度日本YMCA同盟予算方針の件
・東山荘将来構想委員会設置の件

第343回（2020年3月2日）
・2020年度日本YMCA同盟方針・計画暫定の件
・2020年度日本YMCA同盟予算案暫定の件
・次期同盟役員候補者推薦の件
・新型コロナウィルスによるYMCA諸事業影響の見通しの件

第344回（2020年3月20日）
・2020年度日本YMCA同盟事業方針・計画の件
・2020年度日本YMCA同盟予算の件
・次期同盟役員候補者推薦の件
・新型コロナウィルス対応に関する振興資金の件

理　事（7名）
川本龍資、長尾ひろみ、山本俊正、田口努、
神﨑清一（代表理事）、堀口廣司（執行理事）、
横山由利亜（執行理事）

監　事（2名）
古田和彦、平野昭宏

■法人評議員会

主な議題：

第23回通常評議員会（2020年6月16日）
・2018年度日本YMCA同盟事業報告の件
・2018年度日本YMCA同盟決算報告の件
・同盟代議員の件

第24回評議員会（2020年3月20日）
・2020年度日本YMCA同盟事業方針・計画の件
・2020年度日本YMCA同盟予算の件
・第9回（2020年度）同盟協議会の件

評議員（13名）
◎笈川光郎、竹佐古真希、菅谷淳、青山鉄兵、岩坂二規、大森佐和、岡戸良子、田中博之、黄崇子、利根川恵子、仲井間健太、藤本義隆、岡成也

■同盟常議員会

主な議題：

第362回（2019年5月18日）
・2018年度日本YMCA同盟事業報告の件
・2018年度日本YMCA同盟決算報告の件
・第8回同盟協議会の件
・同盟代議員の件
・第20回アジア・太平洋YMCA大会の件

第363回（2019年6月15日）
・同盟代議員の件

第364回（2019年9月28日）
・「中期計画2020」の進捗状況及び今後の取り組みの件
・第20回アジア・太平洋YMCA大会報告及び評価の件
・同盟人事の件

第365回（2019年11月30日）
・次期同盟総主事選任に関する規則施行細則別規程の一部変更の件
・次期同盟総主事推薦委員会答申の件
・第20回アジア・太平洋YMCA大会報告の件

第366回（2020年1月25日）
・2020年度日本YMCA同盟事業方針・計画 骨子の件
・2020年度日本YMCA同盟予算方針の件
・次期同盟役員候補者推薦委員会の件
・同盟総主事就退任式の件

第367回（2020年3月20日）
・2020年度日本YMCA同盟事業方針・計画の件
・2020年度日本YMCA同盟予算の件
・次期同盟役員候補者推薦の件
・新型コロナウイルス対応に関する振興資金の件
・同盟総主事就退任式開催可否について
総主事交代の聖書引き継ぎ式
常議員（25名）
◎笈川光郎、竹佐古真希、菅谷淳、川本龍資、
長尾ひろみ、山本俊正、田口努、神﨑清一、青山鉄兵、
岩坂二規、大森佐和、岡戸良子、田中博之、黄崇子、
利根川恵子、仲井間健太、藤本義隆、岡成也、
淺羽俊一郎、桑田隆明、廣瀬頼子、廣田康人、
村田堅太郎、山本知恵、太田直宏

■同盟協議会
開催日：2019年6月15日～16日
主な議題：
・2018年度同盟事業報告及び決算報告
・2018年度同盟事業計画及び予算
・「日本YMCA中期計画」より事例共有
・アジア・世界との連帯
・YMCAユースチャレンジ事例発表他
全国YMCA 総主事会議より-フロア参加型パネルディスカッション「YMCAブランドの約束と実行をさらに結びつけるために」

2.運営委員会

■YMCA東山荘運営員会
開催日：2019年6月20日、11月28日
YMCA東山荘の利用状況並びに収支決算の報告を基に、委員とスタッフによる5つのタスク（経営、営業、プログラム、施設、募金）でそれぞれの成果の共有と今後の進め方について検討されました。長期的な収支構造の改革を目標とし、今後のYMCA東山荘の事業方針と営業計画の協議を重ねました。
委員（5名）
◎青山鉄兵、野田徹、田原績、伊藤幾夫、野々垣健五

■（主事）退職金中央基金・職員年金基金運営委員会
開催日：2019年5月16日、9月24日、12月16日、2020年3月9日
日本の各YMCAに所属する職員の退職金・年金の集中運用により資金運用の効率化と保全を行い、退職金制度の維持と退職職員への年金の安定支給と共に、現役職員が安心して働けるため制度の改善に努めました。総主事会議・総務担当者会を通じて、退職金制度への新規加入者の拡大ための制度改定とそれに伴う規程・施行細則の変更について合意形成を進めました。なお、改定された退職金制度は、2020年4月より施行されます。
委員（6名）
◎田中博之、堀尾仁、高田一彦、浜野昌保、徳久俊彦、
神﨑清一
（主事）退職金中央基金・職員年金基金資金運用委員会（5名）
◎田中博之、久保田貞視、勝田正佳、徳久俊彦、
齋藤金義

3.常置委員会

■学生部委員会
開催日：2019年7月7日、2020年2月16日
学生YMCA中期計画に基づき、共働スタッフとともに聖書研究を捉え直しその価値を分かち合うこと、若者の生きづらさと向き合い多様なネットワークを通してユース・エンパワーメントを実現すること、運動基盤やメンバーシップを強化することを進めるための活動を継続して展開しています。2月16日の委員会は学生YMCAによる「冬ゼミ」と同日開催であり、全国から集う学生YMCAメンバーによる活動報告と彼らとの交流を通しリアルタイムでの情報交流が実現しました。
委員（5名）
◎竹佐古真希、板野靖雄、村瀬義史、秋葉聡志、
中島敬之

■国内協力委員会
開催日：2019年5月18日、9月21日、2020年1月25日、3月14日（電磁的）
困難な状況にあるYMCAや総主事・スタッフ不在のYMCAのコンサルテーションを実施しました。また、ポジティブネットYMCA西日本豪雨災害募金の管理において、YMCAせとうち、広島YMCAからの支援活動報告を受け募金を管理、運用しました。新型コロナウイルスの影響による全国YMCAの各種事業休止や年度末における経済的影響を鑑み、3月3日から振興資金の緊急貸付に着手し、迅速に3月末までに8YMCA、計60,733,400円の貸付を執行しました。
委員（6名）
◎川本龍資、笈川光郎、利根川恵子、田口 努、井上真二、
岡成也

■国際協力委員会
開催日：2019年5月30日、10月28日、2020年1月17日
ポジティブネットYMCA国際協力募金、国際協力資金の使途計画・報告の承認を行いました。支援パートナー国（カンボジア、東ティモール、モンゴル）への支援内容検討に加え、アジア・太平洋YMCA同盟主催第20回大会・ユースアッセンブリーの日本受け入れ、第8回日中韓YMCA平和フォーラムの日本開催、国際事業ブランディング強化タスクチームの新たなガイドラインなどについて協議しました。
また、アジア・太平洋YMCA大会で示されたアジア・太平洋地域の今後4年間の戦略枠組に沿って、日本の国際協力事業について協議を重ねました。
委員（5名）
◎岡戸良子、長尾ひろみ、淺羽俊一郎、小谷全人、
松田道子

■加盟退除・組織検討委員会
開催日：2019年5月11日、9月20日、2020年3月13日
公益法人移行後の加盟YMCAの会則整備（会員組織・任意団体・キリスト者条項等の整備）を目指して、提出された会則改正案の点検と承認を行いました。2019年度末までに、総主事及びスタッフ在任のYMCAのうち25YMCAの会則改正案を承認し、3YMCAは提出待ちの状況です。並行して「モデル会則」の内容の再点検を行うと共に、海外のYMCAの現状に関する情報を踏まえながら、キリスト教精神に基づく会員組織としてのYMCAの在り方について協議を行いました（継続審議事項）。また、委員会では課題を抱えるYMCAの改善課題に関する情報共有を行いました。
委員（5名）
◎黄崇子、桑田隆明、笈川光郎、菅谷淳、塩澤達俊

■研究所委員会
開催日：2019年5月13日、10月5日、2020年2月1日
中期計画③「リーダーシップ研修の充実を図り、強化する」目的に沿って、次世代の日本YMCA運動の、特にスタッフのリーダーシップ像を明らかにすることを踏まえ、2019年度は現代社会に即した主事研修のカリキュラムと参加環境の検討、社会に発信できるような成果物としての論文やレポートの質を高めていくことを中心に協議を重ねました。
研究所員会（6名）
◎山本俊正、廣田光司、佐竹博、山佐亜津子、田附和久、
秋元みどり

4.特別委員会

■YMCA東山荘地域活動委員会
開催日：2019年6月28日、12月13日
YMCA東山荘における事業を推進するためにYMCA地域活動委員会を開催しました。東山青少年広場、御殿場市との協働事業や東山・二の岡路観光協議会の働きを支援、豊かな地域づくりを実現するための協議、さらにワイズメンズクラブとのパートナーシップを強化するための協議がなされました。
委員（5名）
◎桑田隆明、渡邊巌、池谷洋子、内海重忠、
若林久美子

■主事資格認定委員会
開催日：2019年5月10日
　日本YMCA主事資格の認定を行うための口頭試問と認定委員会を開催しました。
委員（5名）
◎廣田光司、秋葉聡志、加藤俊明、鍛治田千文、
　太田直宏
主事論文審査委員（10名）
松岡信之、原田宗彦、青山鉄兵、湯本浩之、上條直美、濱塚有史、露木淳司、上村香野子、板崎叔子、
久保誠治

■第20回アジア・太平洋YMCA大会／
**　第4回ユース・アッセンブリー　ホスト委員会**
開催日：2019年5月7日、7月4日、8月19日、10月30日
　“Living Together Within Nature on a Path to Peace”（自然の恵みに抱かれ、平和に向かって共に生きる）をテーマに行われた第20回アジア・太平洋YMCA大会と第4回ユース・アッセンブリーの開催に向けて、国際協力委員をはじめ、アジア・太平洋YMCA同盟のスタッフ経験者やワイズメンズクラブ、近隣の加盟YMCAスタッフなどによる準備委員会を設けました。テーマに沿ったプログラムとホスピタリティーを実現するための方策を練り、アジア・太平洋YMCA同盟のスタッフと協働して、大会運営のサポート等を担いました。
委員（14名）
◎長尾ひろみ、笈川光郎、岡戸良子、淺羽俊一郎、
　廣瀬頼子、中島敬之、田中博之、利根川恵子、
　山田公平、菅谷淳、松本数実、大谷昭雄、島田茂、
　神﨑清一

■第2期北東アジア平和のためのYMCAユース平和委員会
開催日：2019年4月24日、7月6日～7日、10月29日、11月1日、11月18日、11月25日、2020年3月29日
　第7回日中韓YMCA平和フォーラム（2017年光州）を機にユースによる平和委員会が発足し、年間を通して平和活動を行いました。今年度は、8月6日広島原爆の日に原爆の子の像へ折り鶴を献納するプロジェクト、及び第8回日中韓YMCA平和フォーラムの日本・東京での開催を準備しました。2020年2月に開催予定だったフォーラムは、新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止となりましたが、委員会活動は継続して実施しました。
委員（6名）
◎宮内蒼也、露崎和奏、村上寛太、大亀愛莉、
　Ong Hou Yin、高田望
アドバイザー（3名）
田附和久、森恭子、中奥岳生

5.定例委員会

■ユース委員会
開催日：2019年6月2日、9月19日、10月30日、2020年1月24日
　ユース・エンパワーメントの考え方の整理を行い、パンフレットの形で全国のユースへ発信を行いました。また、ユースへの助成金事業として「全国YMCAユースチャレンジ」を全国で募集し、ユースグループ5団体へ総額30万円を助成。同盟協議会で発表を行いました。2020年度も引き続きユースチャレンジを実施し、ユースへの支援を広げていくことが協議されました。
委員（4名）
◎藤本義隆、廣瀬頼子、仲井間健太、濱塚有史

■ジェンダー委員会
委員（2名）
◎岡戸良子、鍛治田千文

■ミッション委員会
委員（3名）
◎中道基夫、澤村雅史、神﨑清一

全国YMCA総主事会議関連報告

全国YMCA総主事会議

会長：菅谷淳、副会長：岡成也、太田直宏
開催日：2019年4月17日、6月14日～15日、10月8日～10月10日、2020年2月4日～6日、2020年3月31日
　事業領域化プロジェクトとして、日本YMCA中期計画を推進するために、KPIの基礎となる数値調査の継続、YMCA伴走サポートの導入、プロジェクト型寄附の展開など、全国のYMCAで推進していくための課題について協議を重ねました。特に10月にはYMCA伴走サポートをけん引する茨城YMCAを見学し、実際の運用現場におけるスタッフから報告を受けました。2020年2月には、元神戸YMCA総主事の水野雄二氏を講師に招き、「YMCA会員制度とクリスチャニティ」について学びあいの機会を持ちました。新型コロナウイルス感染拡大による影響が大きくなった2月～3月にはオンライン会議システムZoomを活用した情報交換会も複数回開催されました。

全国YMCA戦略会議

開催日：2019年12月6日、2020年1月27日、3月30日
　6大規模YMCA及び1中小規模YMCAから構成される戦略会議では、オールジャパンYMCAの計画である日本YMCA中期計画の取組みを牽引しました。特にKPI実施については、その目的と内容について整理をし直し、全国で統一された正確なデータが蓄積できるようシステムの構築について協議を重ね、推進しました。
　また、2月より全国で感染が拡大した新型コロナウイルスへの対応について、それぞれの事業における影響を調査し、対策を協議しました。

全国担当者会

■ウエルネス担当者会
会長：宇埜充洋　　担当総主事：中村隆、大塚永幸
　アクアティック、ジムナスティック、サッカー、野外など複数の事業部会で構成されているウエルネス事業は、全国23YMCAで実施され、約36,500名が在籍しています。役員会を5月、2月に開催し、日本YMCA中期計画2020を受け作成した、ウエルネス事業の中期計画に基づき目標達成に向けて取り組みました。2019年度はウエルネス指導者資格認定講習会を複数回実施し、33名のスタッフがYMCAウエルネス指導者資格を取得しました。また、9月に開催した全国YMCAウエルネス研修会・担当者会では、全国担当者有志による研究発表会を実施し、日々の取り組みを分析・評価し、全国に情報発信する機会を持ちました。

■チャイルドケア担当者会
会長：板崎淑子　　担当総主事：田口努、宮田康男
　教育・保育部門（幼稚園・保育園・こども園）とアフタースクール部門（放課後・学童保育）からなるチャイルドケア事業は、それぞれ66拠点に約6,000人、61拠点に約5,700人が在籍し、YMCA全事業収入の約3分の1を占めています。役員会を両部門合同で4月、7月、12月に日本YMCA同盟にて、担当者会は教育・保育部会の管理職対象研修会を10月に、両部門合同研修会（出席120名）を1月に実施しました。教育・保育部門で課題としていた保育士の人材採用と育成のために、タスクチームにより保育士の生き生きとした姿と声で構成された動画が制作され、SNSによる情報拡散が全国で展開されました。アフタースクール部門では、ブランディング、事業戦略による「伴走サポートプログラム」が茨城YMCAにて本格的に始動し、埼玉YMCAでも取り組みが開始されました。

■発達支援事業担当者会

会長：鍛治田千文　　担当総主事：村井伸夫

全国19YMCAで児童発達支援事業と放課後等デイサービスを中心に多様なプログラムを展開し、約1,500名が在籍しています。役員会を7月に横浜、1月に仙台で、また担当者会を7月に横浜で実施し、阿部志郎氏による講演会ではYMCAスタッフの持つべき資質に触れ、多くを学ぶ機会となりました。例年、全国のYMCAで取り組むピンクシャツデーを中心となって進め、在籍者を巻き込んだキャンペーン活動は多くのwebメディアにて採用されました。全国を東西エリアに分け、役員スタッフによる各施設訪問による意見交換を実施し、事業担当者間の連帯を強め、事業推進を図りました。

■高齢者支援担当者会

会長：瀬谷智明　　担当総主事：塩澤達俊

全国7YMCAで特別養護老人ホーム、通所介護施設等を運営しています。高齢者に寄り添い、住み慣れた地域でのつながりを大切に、安心して暮らせる社会を目指しています。近年、多種多様な地域のニーズに対応するために小規模多機能型施設などの開所が増加しています。また、ウエルネス事業分野のプログラムと連携し、介護が必要となる以前に、健康寿命をより長く保てるようYMCAらしい自立支援、介護予防の取り組みを進めています。3月に開催が予定されていた担当者会は、新型コロナウイルス感染の広がりを受け、中止となりました。

■英語教育担当者会

会長：松本数実　　担当総主事：井上真二

全国24YMCA、49拠点にて英語教育事業を実施、約6,000名が在籍しています。役員会を5月、1月に日本YMCA同盟で、担当者会を6月に横浜、11月に大阪で実施し、情報共有や意見交換を行いました。英語教育のさらなる質の向上を目指し、全国のYMCAのサポートシステム運用、教材や運営方法等のデータ共有のシステム活用の活性化に取り組みました。新たなプログラムとして米国から中学生ゲストを招き、野外での自然体験を通じ英語での交流とお互いの文化を学び合うインターナショナルキャンプを7月に実施しました。また、例年12月に中高生を対象に実施されるイングリッシュキャンプは、会場をYMCA東山荘から三浦YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジに移し、全国から41名が学びました。

■日本語教育担当者会

会長：田附和久　　担当総主事：小川健一郎

全国12のYMCAにある17校で、約2,600人の留学生が日本語を学んでいます。韓国、台湾、中国を中心に実施している共同学生募集を継続し、タイでも合同説明会を開催しました。

7月4日～5日、2020年1月16日～17日に担当者会を開催し、新しい在留資格の学びや学生管理、募集広報等について情報共有と協議を行いました。2020年1月16日には第4回日台YMCA留日ワークショップを併催し、台湾YMCAスタッフ14名が来日、東日本エリア6校（名古屋、横浜、在日本韓国、東京）の学校見学と日本留学を推進するための協議を行いました。

■専門学校担当者会

会長：奥薗一紀　　担当総主事：殿納隆義

全国12のYMCAには医療、福祉、保育、スポーツ、ホテル、製菓、語学、ビジネス、建築と社会の多彩なニーズに則した分野の専門学校があり、約2,400名の学生が在籍しています。5月9日～10日と11月14日～15日には担当者会を開催し、学生募集や高等教育無償化への対応などを全国の担当者による協働で進めました。全国にあるYMCAのスケール感をうち出した、合同のランディングページを制作し、費用を分担したリスティング広告を展開。日本語学校との連携も深めることでオールジャパンYMCA専門学校としての学生募集に着手しました。

■ICT担当者会

会長：加藤雄一　　担当総主事：村上祐介

各事業や活動におけるICTへの要望の高まりを受け、役員会では月に1回Web会議にて協議を行いました。会員管理やデータ管理等、将来的に共通化を望む声も多く、最新システムに関して、あるいは困難な事柄に対する課題解決のために、役員会そして担当者会メンバーで情報共有に努めました。全国で連帯して運営しているネット受付システム（e-YMCA）は現在15のYMCAが活用しており現在も増加しています。日本YMCAの共通のプラットフォームであるGoogle G Suiteは、これまでなじみが薄かったClassroom（オンライン授業）やMeet（オンライン会議）、Analytics（アクセス解析）、Chromeリモートデスクトップ等に注目が高まり、担当者会（9/12-13）を実施して、AmazonのAWSやカード決済システム等を加えた学習会を行いました。

■国際事業担当者会

国際事業ブランディング強化タスク

リーダー：小谷全人

前年度に引き続き「国際事業ガイドライン改訂」について検討し、「Diversity, Inclusion & Global Standards／多様性を受け入れグローバルな視点をもつためのスタンダード」として2020年1月に発行しました。また、英語版の作成について協議されました。

国際事業担当者会（2020年1月27日～ 28日、於在日本韓国YMCA）では、スタンダードの最終確認が行われ、国際事業だけではなくすべての事業の中で多様性、グローバルな視点が取り入れられるための広報・普及について協議されました。また、日本国内における難民問題について、難民支援協会から講師を招き講演が行われたほか、各YMCAにおける他事業との協働による国際事業の実践事例が共有され、今後の国際事業の方向性について協議されました。

■総務担当者会

会長：山添仰　　担当総主事：秋葉聡志

総務担当者会（年2回：春・秋）、課題別セミナーの開催を通じて、総務担当者の実務に関する知識や能力向上に努めました。第1回担当者会（福岡）は、「YMCA事業領域化プロジェクト」について学ぶほか、総務に関するリスクマネジメント等の事例研修に加え、人事・労務・財務の3部会に分かれ具体的なケーススタディを行いました。第2回担当者会（滋賀）は、人事労務管理の重要課題としての「ハラスメント基礎理解講座」を開催、そのほかにフィールドスタディ「ヴォーリスとYMCA」でのYMCAミッションに関する学びや3つの部会でのケーススタディを通じて、課題解決に取り組みました。課題別セミナー（東・西2ヵ所で開催）は公益法人申請・報告に関する実務セミナー、人事労務管理セミナー、ハラスメント講習の3つを公開セミナーとして開催し、多くの方に参加いただきました。また、私学法改正タスク、業務効率化タスクを設け、全国アンケートを行い、加盟YMCAの実務的な対応例やガイドライン資料などの情報を提供しました。

全国YMCAキャンペーン

■ウォーターセーフティーキャンペーン

全国YMCAアクアテック事業部会が中心となり例年6～9月までの期間で実施しています。生命（いのち）とはすべてに優先するかけがえのない大切な贈物です。このかけがえのない生命（いのち）を守り育むことが目的です。YMCAウォーターセーフティーハンドブックの配布（約13万部）や水難事故から身を守るための着衣泳講習会、AEDなどを用いた一次救命処置講習会などを約25,000名に実施しました。「自分のいのちを守り、みんなのいのちを大切に」する取り組みを全国YMCAで推進していきます。

全国で約25,000名が参加したウォーターセーフティーキャンペーン

■キャンプ100年キャンペーン

1920年、六甲山麓で最初のキャンプが行われました。大阪YMCAが少年たちのために試みた松林の中での2週間の簡易天幕生活キャンプで、これが日本における最初のキャンプとなります。現在では年間を通じておよそ20,000人の子どもたちが全国各地でYMCAキャンプを体験しています。2020年、YMCAはキャンプ100年を迎え、2018～2020年度の3ヵ年は、YMCAキャンプ100年キャンペーンを展開しています。全国YMCAの夏キャンプでは15,000人が共通のシャツを着用しました。また、11月2～3日には阿蘇キャンプ（熊本YMCA）にて記念シンポジウムが行われユースリーダーを中心に40名が参加し、『キャンプの可能性』をテーマに学びの時を持ちました。キャンプ第2世紀に向けて、キャンプ体験の素晴らしさを伝え、その価値と願いを次の100年へ受け継いで行きます。

■ピンクシャツデー

「ピンクシャツデー」は、2007年、カナダの学生2人から始まったいじめ反対運動で世界70ヵ国以上で活動が行われています。2015年、横浜YMCAが趣旨に賛同しスタッフを中心にピンクのシャツや小物を身に着けてアクションを起こしたことから始まりました。その後、全国のYMCAに広がる中で2017年には文部科学省の後援を受け、地域の教育機関や企業、プロスポーツチーム等にも賛同を得て、約4万人がアクションを起こしました。多くの紙面やwebニュース、ラジオなどでも取り上げられることが増えています。ブランディングが推進されYMCAの事業領域が整理された中で、社会の課題や困難な状況にある人に寄り添う活動はYMCA運動の根幹であり、今後もより広く運動を展開していきます。

キャンプ100記念シンポジウム

ピンクシャツデー

現　勢

組　織	（2020年3月末現在）
世界の国・地域	**120**
国　内	
都市YMCA（加盟・準加盟）	**34**（同盟含む）
・公益財団法人	24
・一般社団法人	7
・学校法人	14
・社会福祉法人	11
・NPO法人	7
・営利法人	5
・任意団体	2
学生YMCA	**37**
・寮学生YMCA	10
・サークルYMCA	17
・設立準備中／連絡YWCA	10
うち公益財団法人	3
一般財団法人	1
地域活動センター拠点	**234**

関係団体

ワイズメンズクラブ国際協会

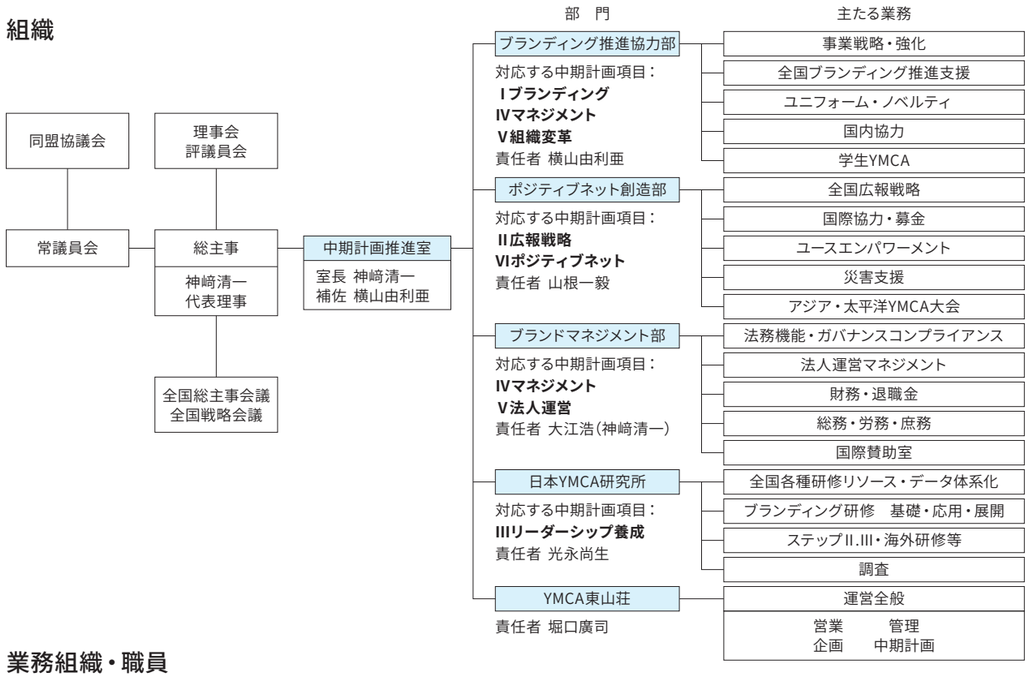
・東日本区　・西日本区

関係・友好諸団体

・世界YMCA同盟
・アジア・太平洋YMCA同盟
・世界学生キリスト教連盟
・日本キリスト教協議会
・公益財団法人 日本YWCA
・公益財団法人 日本レクリエーション協会
・公益財団法人 日本キャンプ協会
・公益財団法人 ボーイスカウト日本連盟
・公益社団法人 ガールスカウト日本連盟
・公益財団法人 日本クリスチャンアカデミー
・公益社団法人 日本キリスト教海外医療協力会
・認定NPO法人 開発教育協会（DEAR）
・認定NPO法人 日本NPOセンター
・認定NPO法人 国際協力NGOセンター（JANIC）
・一般社団法人 協力隊を育てる会
・社会福祉法人 全国社会福祉協議会
・「広がれボランティアの輪」連絡会議
・認定NPO法人 全国災害ボランティア支援団体ネットワーク
・ECPAT／ストップ子ども買春の会
・広げよう！子どもの権利条約キャンペーン
・教育協力NGOネットワーク（JNNE）
・JYPS（Japan Youth Platform for Sustainability）

2019年度日本YMCA同盟 組織・職員

組織



業務組織・職員

部　門	業　務	氏　名			
		主務者		職　員	嘱託・パート・インターン
全　般		総主事	神﨑清一		
中期計画推進室		室　長	神﨑清一	横山由利亜　因幡亮治（熊本）	
ブランディング推進協力部	ブランディング推進支援／物販事業対応	主任主事	横山由利亜	山田紀久美	
	国内協力	主任主事補佐	有田征彦	山田紀久美　平田真姫	
	学生YMCA	主任主事	横山由利亜	石橋英樹	柳原さつき　森小百合
ポジティブネット創造部	ユースエンパワー／災害支援	主任主事	山根一毅	石川晴美	上條直美　宮内蒼也（インターン）
	全国広報戦略				
	国際協力				
ブランドマネジメント部	法務機能／ブランドマネジメント	主任主事	大江浩		
	労務・庶務／総主事室			波多尚子	
	総務			波多尚子　市来小百合	小野寺みさき
	財務／退職金・年金基金				
	史資料			波多尚子	
	システム管理			山田紀久美	
	国際賛助室				大岩弘子　小野寺みさき
日本YMCA研究所	全国各種研修・海外研修	所　長	光永尚生	杉野歌子　横山明子	
YMCA東山荘	営業・広報／マネジメント	所　長 副所長	堀口廣司 光永尚生	沼田光隆　横山明子 盛岡美貴　滝口敦子 杉野歌子	
	プログラム・事業開発			白鳥裕之 盛岡美貴　滝口敦子	阪田祥章
	フロント			横山明子　眞田真由美 滝口敦子　遠藤舞 渡辺桃衣	
	ナイトフロント				藤澤幸伸　芹澤正　小倉正人
	予　約			鈴木貴子　横山明子 沼田光隆　芹澤多賀子 遠藤舞	
	施　設			山田仁	杉山翔　内海信吾　吹田哲雄 鈴木正敏
	客　室				堀ノ内由枝　杉山菜津美　加藤由香里 羽鳥喜和子　小野隆義 長田美恵子　桑原美代子　佐藤裕子
	労務・庶務			眞田真由美	
	会　計	出向（東京）	佐久間眞人	野木千賀世	

2020年度日本YMCA同盟 事業方針・計画

年間聖句

「わたしがあなたの内にいるように、すべての人をひとつにしてください」

（ヨハネによる福音書 17章21節）

「日本YMCA中期計画2020」（2017-2020）は 2020年度に最終年を迎えます。加盟 YMCAは、前中期計画（2014-2016）から一致・連帯してブランディングに取り組み、新しい旗印のもと、オールジャパンYMCAの革新を方向付けるビジョンを推進しています。

それは、長年の組織風土や制度、個別状況の違いを乗り越え、ユースが主体となるYMCA運動の再構築、事業の質の向上、人びとからの共感、支援・寄附、会員の増加・参画を願いとするもので、“ポジティブネット”の実現を目指す運動です。具体的な変革には喜びばかりではなく、痛みが伴うかも知れませんが、だからこそ、これまでの事業や会議体の枠組みを超えて、多様な人材、世代の智恵を集め、歩んでいきます。

一方、この間にも、地球温暖化や平和を脅かす世界情勢、また感染症の拡大等の見えない脅威が深刻化し、そのひずみは日本においても生活弱者に集中している現状があります。

YMCAの「全人一貫教育」を今日的な文脈において具現化できるよう、「子どもとその家族の一番近くに存在し、共に歩むもの＝伴走者」との自覚に立ち、次代に続く希望の灯を高く掲げます。

1 ブランディングを推進し、ミッションを明確にする

ブランディング表出最終年と事業領域化を柔軟に新しい手法も取り入れ、工夫し確実に進める。特にテクノロジーについて全国で使える有料（機能重視）ツールの導入を早急に検討する。会議体ICT活用、双方向コミュニケーションツール導入、自発的コミュニケーションの場（プラットフォーム）作り等を進め、ブランディング推進へと繋げる。

1) 次のステージに向けて、ブランディングの方向性を再確認し、評価する。
①「中期計画推進室」を継続し、計画総体として取り組みを推進するとともに、4ヵ年の評価を行う。
②新型コロナウイルスの影響の規模と推移を見守り、経営再建タスクを立ち上げる。
③次期中期計画策定プロセスを進める。（状況に応じて変更）
2) 全人一貫教育の具現化としての「YMCA伴走サポート」の展開、基礎調査としてのKPI数値取得、プロジェクト型寄附モデル施策実施を着実に進める。
3) ブランド表出の最終整備の支援を行う。
4) ミッションを強化し、全国・各地区で実施される研修に反映する。

2 全国的な広報戦略を策定する

「子育て・子育ち」、「環境」、「ユースのメンタルヘルス」等に関するアドボカシーを進める。紙媒体・SNSの有機的連動、YMCAの持つ総合的なネットワーク、リソース、裏付けとなる実績（エビデンス）を活用する。

1) “ポジティブネット”のある社会の具体的なメッセージを定期的に発信する。
2) 子育て・子育ち分野での全国協働での広報をパイロット展開する。
3) 広報・寄附の多様なツールを研究し、順次活用を進める。

3 リーダーシップ研修の充実を図り、強化する

1) 全国YMCAの研修内容の体系化を進める。
スタッフを対象に加盟 YMCAで行われるステップIやその他研修の機会、YMCA 研究所による研修の機会について、連携できる既存の要素、連携のために必要な新たな要素を整理しつつ、体系化を行う。
2) 多様な採用形態に対応する研修を強化する。
専門職管理者研修の修了者の追跡調査を行い、その効果を図ることで今後の研修のあり方の検討に反映させる。
3) 日本YMCA研究所の研究／シンクタンク機能を強化する。
改編に取り組んできたステップII研修のカリキュラムと講師を中心に、現在と将来の組織的課題、社会的課題に沿った研究／シンクタンク機能の基礎を築く。
4) 就労環境整備及び人事協力の支援を行う。
①加盟YMCAにて就労環境の改善や法制度則った就業規則の整備が進むように、総務担当者会との連携協力により、「働き方改革」の先進事例の共有や研修等を行う。
②人事協力や交流を促進するために「総務ハンドブック」の規程改定に取り組む。

4 YMCA マネジメントを強化し、確立する

新型コロナウイルス感染拡大の影響により困難に直面する加盟YMCAへの支援をフェーズ化し、対応策を検討する。国内協力体制を手厚くし、振興資金等の活用を急ぐ。

1) 運営に課題のあるYMCAの対応・支援を進める。
2) 加盟YMCAのコンプライアンス遵守強化をサポートする。
3) 経営指標及び月次KPIデータの精査を行う。
4) 事務効率化に向けた調査と協議を進め、今後の見通しを立てる。
①総務担当者会並びにICT担当者会が進める「業務効率化」に向けた全国YMCA調査や各YMCAのシステム導入事例を参考に進めていく。

5 日本YMCA運動を組織変革する

次期中期計画策定のプロセスについて検討する。（新型コロナウイルス感染拡大による影響の見通しによる）また役員改選にあたり同盟常議員（会）の機能、持ち方を再検討する。

1) 日本YMCAのガバナンス構造の多角的な視点での協議を活性化する。
2) 各種会議体・委員会の再編成に向けての検討に着手する。特に、オンラインでの小委員会、タスク、プロジェクトを活性化していく。
3) 会員及び会則の将来的展望の協議を進める。
①加盟YMCAの会則整備を完了する。
4) ブランド管理の観点からの加盟退除ガイドラインの検討を行い、文言化する。
①今後の加盟退除ガイドラインの要件について協議に着手する。

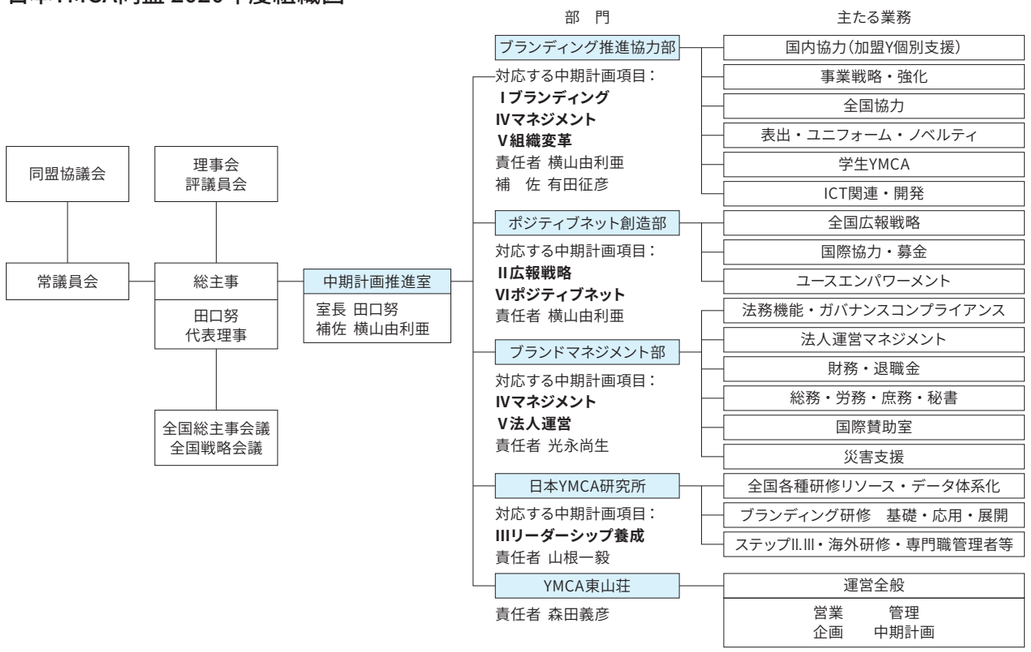
6 “ポジティブネット”実現の姿を示し、ユースエンパワーメントを推進する

1) ユース育成（地球市民育成、ユースボランティア、学生YMCA、中高生他）のビジョンを見出す。新しい取り組みにもチャレンジしていく。
2) キャンプ100及び日本YMCA大会、YMCAユース平和プロジェクトを通した全国YMCAとの協働と平和づくりを進める。（新型コロナウイルスの影響・推移を見守り、柔軟に対応する）
3) 世界や他団体とのネットワークを生かしたSDGs参画・グローバルネットワークブランドを強化する。
4) 減災・災害対策の平時機能を強化する。

7 同盟事務局機能ならびに東山荘の運営強化

1) 同盟事務局の再編成と今後の機能の検討に着手する。
①四谷・東山荘の連携協力を強め、一体的な運営を進めていく。
②職務内容や役割の見直しと業務効率化を進める。
③同盟の就労環境整備と「働き方改革」に取り組む。
④同盟の財務運営と経営健全化に向けた対策を検討する。
⑤四谷・東山荘の各施設の中長期的な改修計画を策定していく。
2)新しいリーダーシップのもとに次期中期計画の策定を進める。
3)東山荘の安定的運営に注力し、将来計画の策定に着手する。
①収支の均等化を図る。利用者拡大のための分析調査と計画に基づいて、新規利用者の獲得に繋げる。
②新規プログラムを開発していく。
③地域との協働をさらに進めると共に、事業の収益性を高める。
④将来計画の作成に着手する。
4)学生YMCAを強化する。またワイズメンズクラブとの協働を推進する。
5)国内外YMCAの情報共有を強化し、課題に対する取り組みを拡充する。
6)退職金中央基金・職員年金基金の運営を強化し、将来展望の協議を行う。
①退職金制度の改定により、各YMCAの新規加入者の増加を図る。
②新しい退職金制度導入に伴うシステム移行を進めると共に、諸規程等の整備を進める。

日本YMCA同盟 2020年度組織図



日本YMCA 中期計画2020

YMCAブランドの革新による胎動から躍進へ

はじめに

現代のYMCAの課題

日本のYMCAは、創立以来、青少年活動の先駆的な役割を果たし、YMCAブランドを維持してきましたが、現代では「よく知らない、イメージがわからない」（2015年度実施「生活者アンケート」）という団体であり、このままでは、将来にわたって使命を果たしつづけることが困難となり、存立の危機と言わざるを得ません。また、財政的にも課題がより大きくなるものと考えます。

YMCAのチャレンジ

2014年度、日本YMCA同盟はこれを一つのチャレンジと捉え、「YMCAブランドの再生」を求めて日本YMCA同盟中期計画（2014－2016年度）を始動させました。2014年から3年間、YMCA本来の宝を今一度発見し、これからの時代において価値となる「YMCAとは」を考え抜き、コンセプトに仕立て直すことに取り組んできました。その成果として、2016年6月の同盟協議会においてYMCAブランドの土台となる「ブランドコンセプト」を発表するに至りましたことは、大きな一歩でありました。

ブランドスローガンとロゴ

さらに、この土台に基づいて、ブランドスローガン

みつかる。つながる。よくなっていく。

を掲げ、ロゴマークを刷新いたしました。新しいロゴは、伝統的なYMCAスピリッツに基づき、日本 YMCA基本原則が謳う「平和」をめざし、未来へ羽ばたいていこうとする日本のYMCAを象徴するものです。

さらなる協力・連帯を目指して

2017年度は、このブランドコンセプトに基づいて、もう一度YMCAの事業や運動を見直し、各YMCAが協力・連帯する躍進の時です。これまでの成果に基づいて、従来の「日本YMCA同盟中期計画」を改め、オールジャパンYMCAのさらなる協力・連帯を目指して、「日本YMCA中期計画」といたしました。

「**日本YMCA中期計画2020**」は、ユースが主体となるYMCA運動を再構築し、その事業の質を高め、人びとからの共感、支援・寄附、賛同する会員の増加を目指すものです。しかし、それは単に事業成績としての目標ではなく、「ポジティブネット」の実現の指標の一つであると考えます。

「神の国の拡張」としてのポジティブネット

「ポジティブネット」のある豊かな社会を創ることは、パリ標準において謳われたYMCAのミッション「神の国の拡張」につながるものです。イエスは、

神の国は、からし種のようなものである。土に蒔くときには、地上のどんな種よりも小さいが、蒔くと、成長してどんな野菜よりも大きくなり、葉の陰に空の鳥が巣を作れるほど大きな枝を張る（マルコ4：31－32）

と言われました。わたしたちはYMCAから「ポジティブネット」が世界に広がっていくビジョンを共有し、この空の鳥が集い、互いに寄り添って巣を作るように、人びとを惹きつけ、そこにかけがえのない場所を見出すことを目指していきます。

ユース育成のビジョンこそ力

「葉の陰の巣」は、子どもとユースを中心にすべての人が安心して育まれていく場所の象徴です。YMCAは、ユース自ら社会の課題をみつめ、自己と社会の変革のためのアクションに向かっていく場となることを目指しています。イエスによって示された「神の国」に導かれる総合的なユース育成のビジョンこそ、YMCAのブランディングを推進する力です。

基本方針

日本のYMCAは、以下のことを進めていきます。

1 ブランディングを推進し、ミッションを明確にする

社会との約束であるブランドコンセプトに基づいて、YMCA全事業の見直しを進め、その価値を高める。YMCAの姿が明確に伝わることで、社会から共感と信頼を得る。YMCAのキリスト教使命（ミッション）を明確にする。

2 全国的な広報戦略を策定する

広報戦略を立案し、恒常的かつ機動的にスケールメリットを生かして、社会に発信ができる体制と体質を作る。社会に貢献する働きを明確にすることによって、賛同や寄附を得る組織風土を確立する。

3 リーダーシップ研修の充実を図り、強化する

次世代の日本YMCA運動のリーダーシップ像を、スタッフ、ボランティア、ユースリーダーにおいて明らかにする。全国で行うすべての研修を捉え直し、カリキュラムを整え体系化する。

4 YMCAマネジメントを強化し、確立する

すべてのYMCAの発展に資するよう、マネジメントの強化を徹底して図り、システムの確立を目指す。全国的な視野で事業強化を推進して財政基盤を強固にすると共に、コンプライアンスを遵守する組織となる。

5 日本YMCA運動を組織変革する

日本YMCA運動としての一致と協力、将来にわたる推進のため、組織構造を変革する。日本YMCA同盟は中期計画推進機能をより「見える化」し、新たにブランド・マネジメント機能を確立する。

6 “ポジティブネット”実現の姿を示し、ユースエンパワーメントを推進する

“ポジティブネットのある豊かな社会”を創造することを決意し、働きを通して社会に示し続けていく。グローバルな基盤を活かしてユースが自ら考え行動するネットワークを広げ、ユースエンパワーメントを推進する。

2019年度事業報告書

発行　2020年6月1日
公益財団法人 日本YMCA同盟
〒160-0003 東京都新宿区四谷本塩町2番11号
Tel 03-5367-6640　E-mail info@japanymca.org
デザイン・制作　pros creative

公益財団法人 日本YMCA同盟

https://www.ymcajapan.org